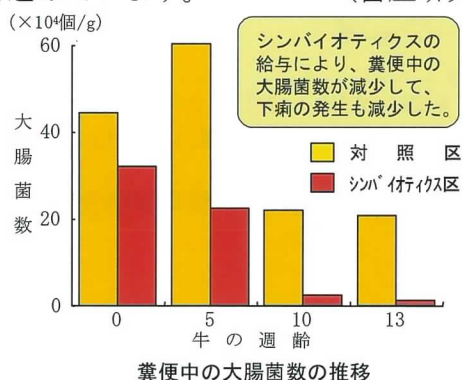


研究トピックス

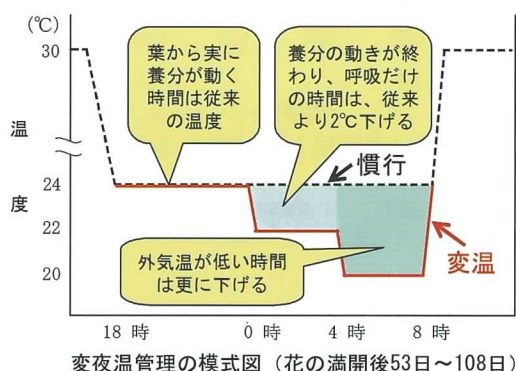
シンバイオティクスで 子牛を健全に育成

動物の腸内で善玉菌として働く乳酸菌（プロバイオティクス）と、その栄養となるオリゴ糖（プレバイオティクス）を組み合わせた「シンバイオティクス」を乳用子牛に給与した結果、下痢の抑制や発育促進の効果が見られました。成長促進素材や抗菌性物質の代替品として活用が期待され、普及に向け技術確立を進めています。（畜産研究部）



重油を削減できるハウスミカンの変夜温管理プログラムを検討中

重油の高騰はハウスミカン経営にも大きな打撃です。そこで、果実の成熟を遅らせたり収量を減らすことなく、時間帯により夜間の温度を低くする「変夜温管理プログラム」を検討中です。午前0時以降に2~4℃下げると、成熟や収量に影響なく6.3%の重油削減ができました。さらに削減率の高いプログラムの開発を進めます。（園芸研究部）



クルクマさび斑病の防除対策

クルクマさび斑病はカビ *Plectosporium* 属菌が、花茎や葉に褐色の病斑を作る病気で分生子により伝染します。土壌や球根に付着した分生子が翌年の伝染源となるため、球根を丁寧に洗浄したり、45℃の温湯に1時間浸けるか、オゾン水に一晩浸けると、病気の発生が大幅に抑えられることが分かりました。

（環境基盤研究部）



左：クルクマ「シャローム」の花

右：クルクマさび斑病の発生状況

粉色の良好な小麦品種開発のための 簡易選抜法の開発

国産小麦は、めん色の「くすみ」が商品性を大きく落とす原因の一つになっています。そこで、めん原料となる粉色が良い品種を効率的に開発するために、育種の素材となる品種系統の持つ粉色の良否を極少量の粉(0.5g)を基準品種と比較することにより簡易に判定する方法を開発しました。（作物研究部）



豪州産ASW きぬの波 × 西海184号 = 東海103号

日本めん用に広く使われるASW（左）と、選抜した「きぬの波」「西海184号」を交配して育成した「東海103号」のうどん（右）

編集・発行

愛知県農業総合試験場

〒480-1193 愛知県愛知郡長久手町大字岩作字三ヶ峯1-1

TEL 0561-62-0085 内線323（企画普及部）

FAX 0561-63-0815

<http://www.pref.aichi.jp/nososi/>